

# 研究所だより

## 「価値創造」への組織再編

当社の年度は6月から始まります。まだ、昨年度の業務が残ってはいますが、新規一転して新たな年度に向けての活動を始動させたところです。

当社は規模も小さく、また、効率性を高めるためにも出来るだけスリムな組織体制が望ましいと考えています。

我々のステークホルダーは株式会社としては、株主である役職員自身ですし、シンクタンクとしては国民ですし、もちろん、業務に関わる委託者や融資者もそうです。従って、対外的にきちんと活動内容や運営状況を説明でき、それを自律的に統治することが重要だと思っています。

以前は、2つの事業部と1つの部で構成していましたが、今期からは、2つの事業部に集約し、事業部にそれぞれ2つの室を設けました。

また、従来の経営責任者としての社長及び取締役とともに、業務管理の責任者として社長以下執行役員として5名が事業部長・室長の任にあたることとしました。

今回の組織編成の是非というよりは、今後、常に必要に応じた最適な組織体制が取れるような柔軟な組織運営とすることが重要だと思っています。

## 編集者から

情報発信等の広報活動の重要性は今後も一層重要になっています。

海外において政策研究をしている著名な研究機関が多くありますが、これらは広報を管理部門の一部署として重要視しています。特に米国では、ファンド・レイジングが極めて重要であることから、これを広報活動に含んで考えており、マスコミの特派員経験者やコミュニケーション専攻等の実力のある専任スタッフを雇用しています。ホームページはもとより、機関紙・出版、レフリード研究ジャーナルそしてテレビ・新聞等のマスコミ等を総合的に活用してアウトリーチ活動を精力的に行っているようです。

我が国では、ミッションが独立的政策提言であることが少なく、寄付による資金調達が少ないことやコストもかかること等から欧米のような本格的な広報活動体制をとっているところは少ないようです。むしろ、一般向けにマスコミ等に出ることを躊躇する向きも見られます。我々も、専門分野等の知見は誰にも負けないという自負のもとに、忙しいこともありますが、「知る人ぞ知る」でいいのではとの認識がどうしても頭から離れないのが実情です。しかし、認知度が重要であることは改めて感じており、発信の嚆矢であるこの「Best Value」の一層の充実を図り、一人一人が専門家であるとともに広告塔であるとの認識のもとに、今後益々各分野で様々な発信活動をしていきたいと思っています。

## 04号目次

テーマ1	新たな政策立案の潮流とシンクタンクの役割
テーマ2	「政策」の「評価」について
テーマ3	非市場財の経済評価
テーマ4	都市における定量的な分析・予測・評価手法の可能性
テーマ5	日本の住宅金融の転換に向けて
テーマ6	密集市街地整備型リバースモーゲージシステム
テーマ7	若者の地方回帰
テーマ8	ソフト・サービス分野におけるPPP
テーマ9	所有権の住宅と利用権の介護施設を組合せた新しい居住形態：ジュリオ
テーマ10	サービスオフィス：多様化するオフィス形態
テーマ11	アウトソーシング
テーマ12	都市再生とベイエリア連合構想への道

## 05号目次

テーマ1	新たな政策立案の潮流(2)-英国に学ぶ視点
テーマ2	21世紀のエネルギーインフラ整備に向けて
テーマ3	水素社会への移行
テーマ4	欧州の温室効果ガス排出動向と我が国の取組み
テーマ5	政策評価における定量的な分析・評価手法
テーマ6	都市整備とエリアマネジメント
テーマ7	小売業の概況と商業施設の不動産証券化
テーマ8	東京湾ベイエリア産業ビジョン
テーマ9	全国のリサーチパークの現状と課題
テーマ10	GISをとりまく近年の動向と展望
テーマ11	事業用借地権の現状と展望
テーマ12	カジノと観光産業